

## 日本工営 藻場創生支援システム「MobaDAS」、 NEDO 主催コンテストで第1位獲得 - ブルーカーボン創出への貢献を目指して -

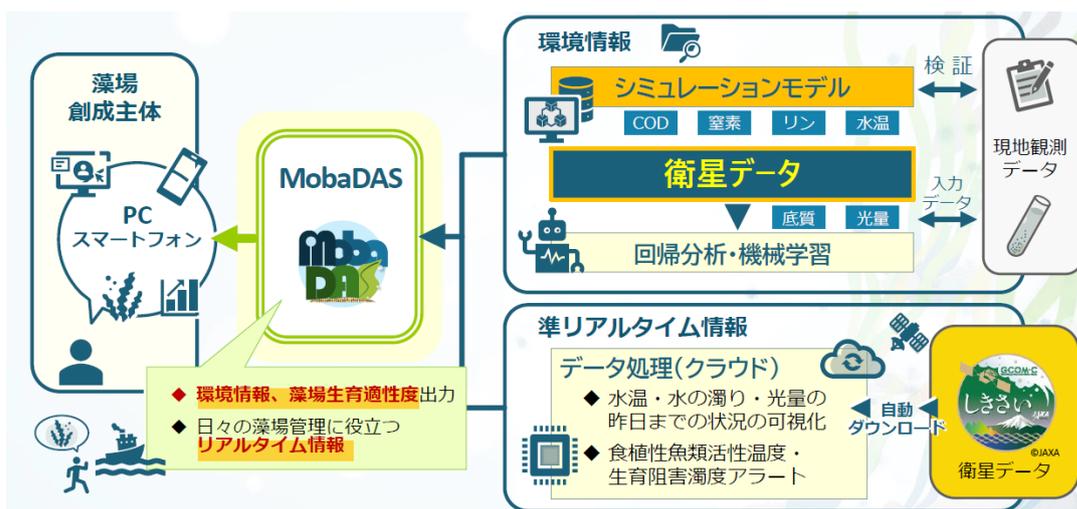
ID&E ホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、代表執行役社長：新屋浩明）傘下の日本工営株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：金井晴彦、以下「日本工営」）は、藻場の分布把握や創生を支援するシステム「MobaDAS」を開発しました。

様々な海草や海藻が群生している藻場は、海草や海藻を食べる生き物の餌場かつ魚介類の産卵や幼稚魚の保育の場であることに加え、近年では二酸化炭素（CO2）を吸収するブルーカーボン生態系としても注目されています。しかし、地球温暖化による海水温の上昇や食害生物の増加などにより、藻場の衰退・消失が全国各地で進行し、深刻な問題となっています。さらに、水中に生育する藻場は環境情報取得の難易度が高く、分布や生育を規定する環境要因などの情報の横断的な利用が不十分という課題がありました。

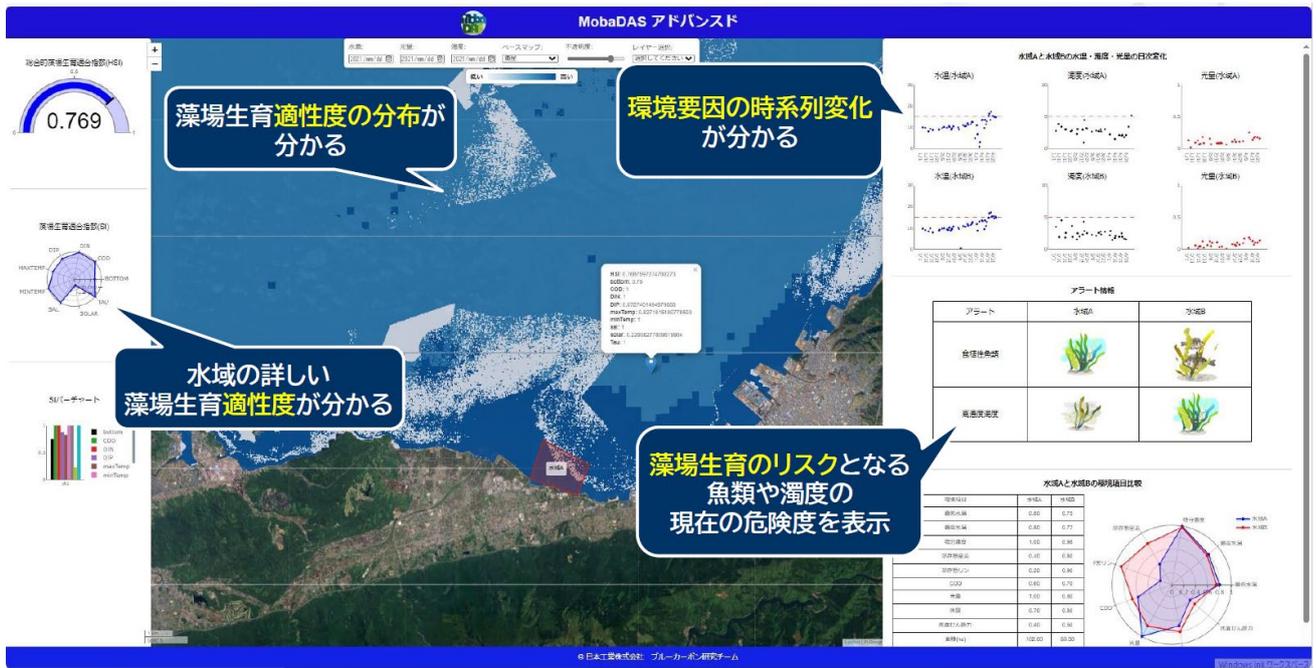
この度日本工営中央研究所と地球環境事業部からなる研究チームでは、環境情報を踏まえた現在・将来の藻場生育ポテンシャルを可視化するシステム「MobaDAS」を開発しました。MobaDAS は既存の科学的知見、多様な波長・特徴を持つ衛星画像の解析、水理水質モデルによる水中環境予測など、水環境に関する多面的な技術分野を融合し、場所ごとの藻場生育適性を統合評価します。藻場創生や維持管理を行う民間企業・自治体・漁業協同組合・NGO などに活用されることを想定し、藻場の生育に適した水域の判別、藻場のリアルタイム情報が一元的に確認できるシステムとしました。日本工営は本システムを通じて、より最適な藻場創生計画の立案・策定を支援し、ブルーカーボンの創出に貢献します。今後、実証実験等を経て2026年中のサービス開始を目指します。

また、MobaDASは2025年1月、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）主催の衛星データ活用開発コンテスト「NEDO Challenge, Satellite Data for Green Earth」において第1位（「テーマ1：カーボンクレジット基盤構築（グリーン・ブルーカーボン等）」）を獲得しました。藻場の生育可能性評価に対し、シミュレーションモデルによる精度向上や準リアルタイム情報を用いたサービス提供など、衛星データを積極的に活用する点が評価されています。

日本工営は、今後も技術的な知見やノウハウを活かし、良質なサービスを国内外に広く展開していくことで、様々なパートナーと共にサステナブルな社会づくりに努めてまいります。



MobaDAS 運用イメージ



MobaDAS 画面

-本件に関するお問い合わせ先-

ID&E ホールディングス株式会社 経営管理本部 コーポレートコミュニケーション室

TEL :03-5276-2454 Email : c-com@n-koei.co.jp